

第3章

秋田の縄文遺跡群の現状と課題

1 世界文化遺産を取りまく現状

（１）ユネスコ世界遺産委員会決議における不適切なインフラ要素への対応

縄文遺跡群の世界遺産登録に関する決議の際に、不適切なインフラ要素の撤去、修景についての勧告を受けています。

秋田の縄文遺跡群では、大湯環状列石を通る県道十二所花輪大湯線の移設と伊勢堂岱遺跡における高速道路沿いの遮蔽について、取組を着実に進めていくことが世界遺産として重要な課題となります。

（２）遺産影響評価の取組の推進

近年、世界遺産委員会は、世界遺産一覧表に記載された資産の範囲や緩衝地帯及びその周辺で開発行為等が計画された際に、その計画が遺跡に与える影響を評価する「遺産影響評価（HIA：Heritage Impact Assessment）」の実施を求めています。

縄文遺跡群では、「北海道・北東北の縄文遺跡群の保全に係る遺産影響評価指針」を策定しており、これに則って遺跡の環境や景観の保全と多様な経済活動との調和を図るため、関係機関の情報共有や遺産影響評価の取組について周知しつつ進めていくことが今後の課題となります。

（３）世界遺産登録による来訪者数の増加に伴う遺跡保全上の懸念

世界遺産への来訪者は、登録の前後に報道等で取り上げられる機会が増えることなどにより、増加する傾向があります。令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、国内外の人の往来が制限されたため、縄文遺跡群への来訪者は一時的に減りましたが、基本的な増加傾向は、令和元年度に登録された「百舌鳥・古市古墳群」でも顕著に認められています。こうした来訪者数の増加により、受入の許容量を超えたケースの中には、環境の悪化や騒音、振動などの問題発生も認められます。

遺跡の保全とともに、地域社会への影響に対する懸念も合わせて想定し対応していくことが必要となることから、来訪者の推移を確認し、適切な受入体制を整えていくことが課題となります。

（４）来訪者の国際化

訪日外客数は、令和元年には3千万人を超えていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年に約4百万人、令和3年には約25万人にまで激減し、令和4年はわずかながら回復の傾向が認められます。

今後の状況にもよりますが、規制は緩和の方向にあり、徐々に訪日外客数が増えると考え

られることから、外国人旅行者に対応した多言語化等の整備を着実に進めていくことが課題となります。

第1表 訪日外客数（総数）

年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
人数(人)	28,691,073	31,191,856	31,882,049	4,115,828	245,862	3,831,900

※出典：日本政府観光局（JNTO）

（5）縄文文化の楽しみ方の多様化

縄文文化に関しては、独自の視点で縄文を捉えたフリーペーパーの発行や土偶女子の活動など、遺跡や出土品そのものだけではなく、縄文を様々な角度からアレンジして楽しむ傾向が見られるようになってきています。

遺跡という特殊性を生かしたイベントの実施や体験メニューの開発等、こういった需要に対する情報提供のあり方やアプローチの方法について研究し、整備していくことも今後の課題となります。

2 世界遺産環境整備調査事業アンケート調査の結果

県は、令和3年7月の縄文遺跡群の世界遺産登録を受け、大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡の保存活用及び周辺部を含めた整備状況について、地元住民の意見や課題意識を把握し、今後の施策に生かす基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施しました。

（1）調査の内容

- ・世界文化遺産に登録されたことについての認知度
- ・遺跡見学経験の有無
- ・遺跡についての認識
- ・遺跡の整備や活用についての意見 等

（2）調査の概要

- ・調査地域：鹿角市及び北秋田市
- ・調査対象：2市それぞれ18歳以上の市民1,000人（計2,000人）
- ・標本抽出方法：選挙人名簿をもとに無作為抽出
- ・調査手法：郵送による無記名式アンケート調査
- ・調査期間：令和3年11月30日（火）～同年12月15日（水）

(3) 回収結果

- ・鹿角市 : 39.6%
- ・北秋田市 : 36.4%

(4) 結果の概要 (※抜粋、詳細については参考資料2参照)

- ・縄文遺跡群の世界遺産登録の認知度
鹿角市 : 知っている 98%、知らない 2 %
北秋田市 : 知っている 98%、知らない 2 %
- ・大湯環状列石や伊勢堂岱遺跡が登録された感想
鹿角市 : (大湯環状列石) 嬉しい 72.5%、嬉しくない 0.5%、どちらともいえない 26.3%
北秋田市 : (伊勢堂岱遺跡) 嬉しい 73.9%、嬉しくない 0.3%、どちらともいえない 24.5%
- ・大湯環状列石又は伊勢堂岱遺跡を訪れた感想
鹿角市 : (大湯環状列石) 期待以上・期待通り 43.3%、やや期待外れ・期待外れ 51.7%
北秋田市 : (伊勢堂岱遺跡) 期待以上・期待通り 53.5%、やや期待外れ・期待外れ 40.7%
- ・大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡で今後整備が必要と思うもの (上位3項目)
鹿角市 : 遺跡中央の道路移設、遺跡内の電線・電柱移設、解説板・展示施設の多言語化
北秋田市 : 縄文館の展示の追加、環状列石の石の補強、眺望阻害樹木の伐採
- ・遺跡を多くの人に楽しんでもらうために必要だと思うもの (上位3項目)
鹿角市 : 飲食店等の整備、お土産を買える施設、駅からの公共交通機関の整備
北秋田市 : 飲食店等の整備、駅からの公共交通機関の整備、お土産を買える施設

(5) 調査の結果

調査の結果、世界遺産に登録されたことの認知度は鹿角市と北秋田市ともに 98%、登録を歓迎する反応も両市ともに 70%を超えており、世界遺産登録への注目度及び今後の期待感が高いことが判明しました。

一方で、両遺跡を訪れた感想では、大湯環状列石で 51.7%、伊勢堂岱遺跡で 40.7%の方がやや期待外れ又は期待外れの感想を抱いており、その主な意見として、遺跡の良さや価値が分からない、ガイドや案内が不足している、売店や飲食スペースが無いことなどが挙げられています。

両遺跡における今後の整備や活用で必要と思われるものについて、遺跡の中や関連地区の整備に関しては、大湯環状列石で道路や電線の移設といった景観面と、解説板や説明の多言語化及び展示施設充実などの情報提供面、伊勢堂岱遺跡で環状列石の保存処理や縄文館の展示拡充といった保存活用面と眺望阻害木の伐採による景観面の改善を求める声が多く挙げられています。また、遺跡周辺の整備に関しては、両遺跡で飲食やお土産を購入できるスペース、公共交通の改善や新たな取組を求める意見が多く挙げられました。

地元住民による主な意見等は次のように整理され、今後の課題となります。

- ・来訪者に世界遺産の価値や魅力を確実に伝達するため、ガイド活動を拡充し、外国人旅行者にも対応できるようにする。
- ・遺跡周辺に土産購入や飲食等の便益施設を整備するとともに、二次交通のアクセス充実にを図る。
- ・縄文時代の生活体験ができるような、体験メニューを開発する。
- ・遺跡の適切な保存と整備を進め、高齢者や障害者等も容易に足を運べるような見学環境を整備する。
- ・遺跡のPR強化と誘客促進のため、遺跡周辺の観光地と連携した情報提供を図る。
- ・両遺跡の連携を強化するため、遺跡相互に情報発信を進めるほか、連携イベント等の開催を通じ、両遺跡を巡回できるような情報提供を充実させる。

3 秋田の縄文遺跡群の課題

秋田の縄文遺跡群について、国内の先行事例から想定される課題や、地元でのアンケート調査結果から洗い出された課題は次のとおり整理され、施策として様々な取組を進めていく必要があります。

- ①縄文遺跡群の世界遺産登録時に受けた勧告に適切に対応するため、不適切な現代的要素である道路の移設や遮蔽等の取組を着実に進める。
- ②遺跡の保全と多様な経済活動との調和を図るため、関係機関で情報共有しながら、遺産影響評価（HIA）に基いた保存管理を着実に進めていく。
- ③世界遺産の価値や魅力の伝達・拡散のため、ガイダンス施設等の展示内容の随時更新のほか、ガイド活動の拡充を図る。またフォーラムや活用イベント、ワークショップを開催するとともに、学校教育や生涯学習との連携を進める。
- ④来訪者の多様なニーズに対応するため、景観に配慮しつつ土産購入や飲食等に関する便益施設の整備を図る。また二次交通のアクセス充実に取り組むとともに、遺跡へのアクセス情報の発信を強化する。
- ⑤来訪者への情報を分かり易く提供するため、様々な利用形態に応じた案内方法を拡充する。合わせて、外国人旅行者や高齢者等に対応した見学環境も充実させる。
- ⑥魅力的な活用事業を提供するため、来訪者が土器・石器等の道具作りや縄文食等を体験できるメニューを開発する。
- ⑦両遺跡の一体的かつ多面的な情報発信のために、周辺の観光地と連携した誘客の強化や、両遺跡の連携イベント等を充実させる。

